

2018年度 北海道支部技術研修会 実施報告書

1 視察先

①ケーブル技術ショー2018

②NHK放送博物館（港区愛宕2丁目）

③関東支部施工部会会員との情報交換会

2 研修期間 2018年 7月19日～20日（2日間）

3 参加者 8名（8社）

① 7月19日(木) 14時～ ケーブル技術ショー2018視察（東京国際フォーラム）

北海道支部青年部では、昨年に引き続き第2回目のケーブル技術ショーの視察研修を実施しました。会場にはたくさんの方が視察にきており、あらためてケーブル技術ショーの規模の大きさを感じました。普段あまり携わる事がない分野の企業やメーカー様も数多く出展しておりとても新鮮に感じました。その中でも特に関心の高かった3テーマについて報告します。

《高層マンションにおける新4K8K衛星放送受信のための光伝送（FTTH）システム》

1つは、テレビ共同受信関係メーカーのブースで、高層マンションの新4K8K衛星放送の共同受信システムを光伝送（FTTH）システムで構築している説明を受け、技術や商品が日々進化を遂げていることを学ぶ事ができました。

《都市における無電柱化推進と最新の施行技術》

2つ目は、無電柱化推進をテーマとしたブースです。近年、災害が多い中で電柱が救助活動や交通の妨げる事が多いと以前から耳にすることがあり、興味がありました。

こちらのブースでは歩行者の視界を妨げない低層型のCATV機器収容ボックスや管路の浅層埋設技術について学ぶ事ができました。今回の視察に参加させていただきよい学びができたと思われました。今後も視察等があった際は参加させていただきたく思います。

《新4K8K衛星放送受信設備の施工ガイドランと漏洩電波測定技術》

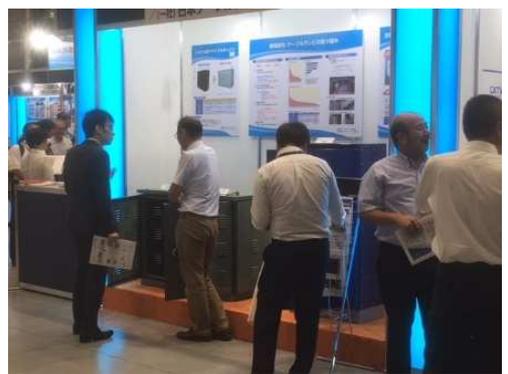
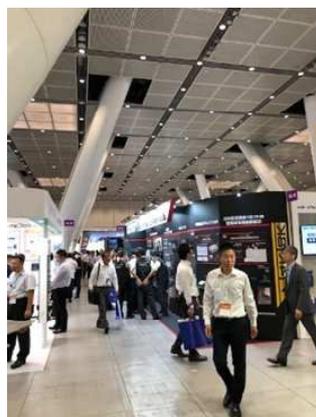
3つ目は、新4K8K衛星放送開始に伴う衛星放送用受信設備からの中間周波数の電波漏洩に伴う干渉障害の対策手法についてです。2018年12月1日に、新4K8K衛星放送（左旋円偏波）が開始され、新4K8K衛星放送で新たに使用される中間周波数（2.2GHz～3.2GHz）と既存の無線設備が使用する周波数帯域が一致し、双方が干渉を受け障害を起こさないための対策を視察研修してきました。2018年4月に、新たに法令で技術基準（受信設備から漏れる電波の強さの上限値）が施行され、各メーカーがガイドラインを満足する機器を販売していることを確認しました。

ただ、新4K8K衛星受信は、新設備で受信する以外に、既存の設備を改修して受信する場合も多く、技術基準を満たした機器に交換しない場合、受信が困難だけでなく、電波の漏洩により、他の無線設備に障害を与えてしまいます。

障害を起こさない対策として、衛星1チャンネルあたり（33.7561MHz）の「漏洩電力」、「3mにおける電界強度」のレベルが技術基準として決められていますが、スペクトラムアナライザ（ソフト別購入）に、専用のアンテナを取り付け、漏洩電力の方向を探しながら測定する方法を展示測定器で説明していただきました。

方向を探さない場合は、八木式アンテナで電界強度測定と同様に測定することも可能とのことです。漏洩電力の測定は、今回の技術ショーで確認できましたが、測定器メーカーの話では、あくまで、測定器メーカーとしての測定方法であり、総務省では、技術基準に対しての測定方法は、まだ、明確にしていないそうですので、今後に注視したいと思います。

今回の視察は、工事業者として、新4K8K衛星放送が開始された時におこりうる障害対策を事前に準備、確認できる研修でした。



② 7月19日(木) 18:00～ 関東支部施工部会との情報交換会

北海道支部から若手8名、関東支部から4名が出席し、情報交換会を開催しました。交換会では、関東支部施工部会の活動内容や新4K・8K本放送に向けた取り組みの技術的な課題、人件費高騰や人員不足の問題、業界の将来像といった経営に関する事まで貴重なお話を聞くことができました。経営者であり施工部会の中心メンバーの関東支部と若手中心の北海道支部という立場が異なる会員の交流会でしたが、活発な情報交換をおこなう事ができました。

《参加者の感想》

○関東支部は本部と同じ所在地と言うこともあり、本部の活動（施工マニュアル作成等）に協力する等本部と密接に関わりをもち、各部会活動も活発に行うことで協会の発展に大きく寄与している印象を受けました。日頃接することが少ない道外の技術協会加盟会社 経営トップの貴重なお話を聞いたことはとても参考になり刺激を受けました。今回のような交流会を今後も活発に行うことで、北海道支部及び青年部が一層盛り上がることを期待したいです。

○関東支部施行部会の先輩会員の皆様方大変貴重なお話しを拝聴でき、とても感謝しています。若手会員としては、実際の工事の難しさについてなかなか実感することはできませんが、今回の情報交換会を通じて、多少でも現場状況を聞く機会が得られたことは、今後CATV業界に携わり仕事をしていく上で、とても参考になりました。また、新4K8K衛星放送に対応するにあたり、現在のCATV業界の動向など、様々な意見交換ができたことは大変良かったと感じています。今後もこのような視察研修があれば参加させていただきたいと思います。

○この度、青年部視察研修に参加し、関東支部施工部会の方々から貴重なお話しを聞く機会をいただき大変感謝しております。現場で働く一人として感じた事は、どんな軽微な作業でも安全対策として警備員を必ず帯同し作業を行っているということでした。これは北海道と関東での大きな差ではないかと思えます。安全対策として帯同できる警備員を確保することもこれからの課題かと思いました。施工面では無電柱化による埋設工事が進んでいるようです。道路脇に機器収納ボックス等を用いてCATV設備を設置するなどの改修がされているようです。北海道では、都市中心部しか無電柱化は進んでいませんが、将来的には無電柱によって高所作業が無くなり、安全な作業とともに災害からも守られるのではないかと感じました。今後もこのような機会があれば参加したいと思いました。

③ 7月20日(金) 10:00～ NHK放送博物館見学(港区愛宕2丁目)

青年部の視察研修2日目は、『NHK放送博物館』を初めて訪問しました。

《参加者の感想》

○2階の放送体験スタジオでは、ニュース原稿をカメラの前で本番さながらに読ませていただいたり、天気予報のタッチパネルでの予報士をさせてもらったりとテーマ業界の花形の仕事を経験させていただきました。3階では『ヒストリーゾーン』という放送の歴史に触れてきましたが、懐かしいVHSやベータの録画機や、放送初期のスタジオカメラなどもあり、テレビ放送になる前のラジオ放送の様々な歴史を学ばせていただきました。戦後の日本がどうやって高度成長を進めてきたのかが非常に分かり易くフロアを進むとわかる展示でした。このような経験をもっと業界の若い従業員さんに体験してほしいと思います。

